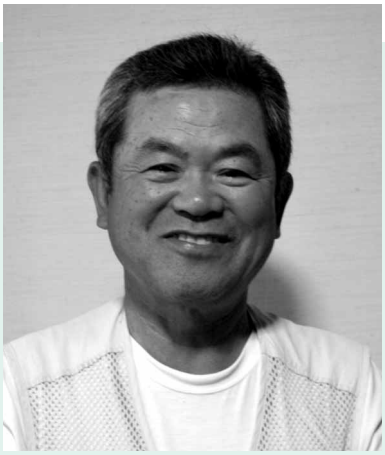
「おはよう」。声と表情で体調もわかります

「学校がある日は毎日、交代で見守っています」という高階南小学校学校安全支援ボランティアの皆さん。朝は子どもたちの登校を見守りつつ「おはよう」。登校後は敷地内を見回ったり、校門で不審者が入ってこないように見張ったりしています。「最近では、子どもたちの方から積極的にあいさつしてくれます。これからもみんなで力を合わせて、子どもたちを見守っていきたいですね」。

左から楠本公亮さん・吉野さん・吉田二一郎さん



高階南小学校の
学校安全支援ボランティアとして、
子どもたちを見守る吉野辰吉（よしのたつよし）さん
（66歳・諏訪町（すわちょう））

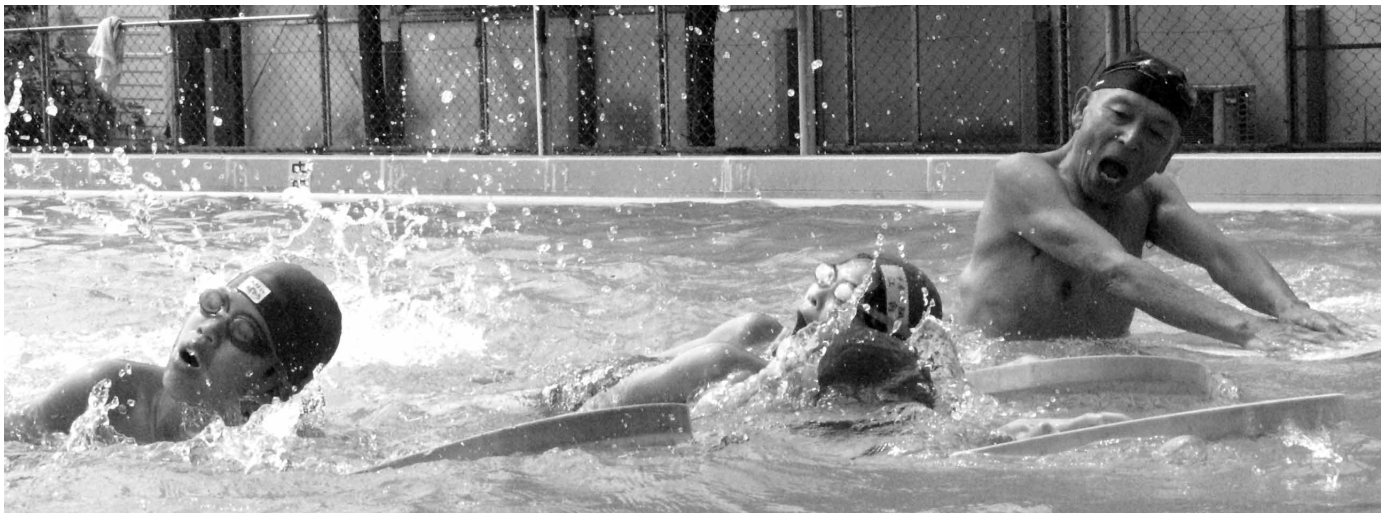
平成13年６月に発生した、大阪教育大学付属池田小学校（池田（いけだ）市）の児童殺傷事件。これが子どもたちを見守る活動のきっかけです。以来、学校のある日は、ほとんど毎日行っています。今では活動が広がり、学校安全支援ボランティアとしておよそ100人の地域の皆さんが、協力して子どもたちを見守っています。

子どもたちは、大人のすることをよく見ています。だから、身をもって示すことが大切だと思います。活動を続けていくうちに、会釈だけでなく声に出してあいさつする子どもたちが増えてきました。中には、握手を求めてくる子もいます。卒業した後も、道で会うとあいさつをしてくれるのがうれしいですね。国の宝である子どもたちを、これからも見守り続けていきます。

徳

平成十七年度に文部科学省が行った「地域の教育力に関する実態調査」によると、地域の安全に疑問を持ち、子どもを他人と交流させることに抵抗を感じる保護者が三割を超えています。この状況は、子どもたちの徳を育てるうえで支障となる可能性があります。学校でのボランティアは、このような保護者の不安を解消できるかもしれません。なぜなら、学校と協力しながら活動しているため、一般的なボランティア活動よりも保護者が受け入れやすくなるからです。

学校と家庭では、「けじめのある生活」「礼儀正しく人と接する」「約束やきまりを守る」の三つの内容を中心に、子どもたちに基本的な生活習慣を身に付けさせます。そして、地域のボランティアに出会うことで、子どもたちはより多くの交流をします。子どもたちはたくさんの体験や交流を通じて、社会に出ていく上で必要となる、人との接し方などを身に付けていきます。



「できないよ」。何回も繰り返すうちできることが増えていく

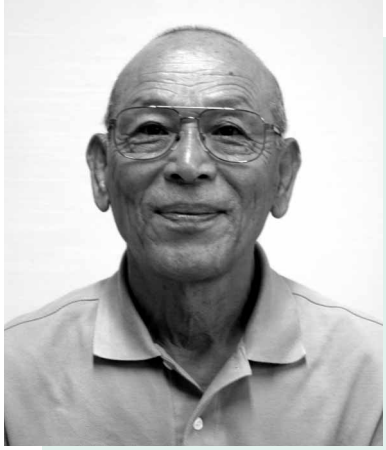
七月二十六日から二十八日の三日間、霞ケ関南小学校で行われた「チャレンジ水泳」。延べ百人の子どもたちが参加しました。「息継ぎができるようになったよ」「速く泳げるようになった」と、子どもたちの評判も上々です。

学校では、体力について子どもたちひとりひとりに合わせた目標値を設定しています。家庭では、バランスのよい食事や十分な睡眠などを心がけることが大切です。

体力は、必ず個人差があります。しかし、努力することで昨日の自分を超えることができます。一生懸命何かに取り組む。その姿勢を学ぶことができれば、さまざまな効果が生まれるでしょう。自分の力を伸ばすことで得られた達成感は、何事にも代えられない、子どもたちの宝物になるはずです。

市民の皆さんも、いろいろな形で子どもたちを見守ってください。将来の川越のためにも、みんなで子どもたちの「生きる力」をはぐくんでいきましょう。

体



霞ケ関南小学校の「チャレンジ水泳」で、水泳を教えている井口（いぐち）ーはじめさん（72歳・かすみ野（の）２丁目）

４年前から、霞ケ関南小学校で夏休み期間中の水泳教室を始めました。昨年は、まったく泳げなかった子が、３日ほどで泳げるようになりました。子どもたちには、少しでも泳ぎがうまくなって帰ってほしいと思っています。できなかったことができたときの喜びを、一人でも多くの子どもに味わってほしいですね。

水は危険が伴うので、子どもたちの安全を第一に考えています。命にかかわることもあるので、ふざけているときちんとしかるようにしています。時間が限られてしまうので、教えたいことを教えきれないのが残念です。子どもたちの体力が低下しているので、脚力向上につながればと思い、足ひれなどを学校に寄付しました。これからも体力が続く限り、子どもたちに水泳を教えていきます。